

がつ、その規模の大きさから見て、Ge-wandschneiderなる語にまつわる矮小な諸観念とは全く無縁であると、レーリヒはいつているではなからうか。私の読みちがえであれば、むしろ幸いである。

(B6判一二六頁 昭和四四年二月末来社刊「社会科学セミナー」定価三八〇円)

(川口 博)

Jean Gottmann:

## Essais sur l'aménagement de l'espace habité

メガロポリスの著者ゴットマンの論文集。「生活空間の整備に関するエッセー」と題し、著者が各種の雑誌等に発表した論文十八編を整理して一冊の本にしたものである。全体を三部に分け、序文、序論と結論をつけ加えて、序文、序論と本文四部からなっている。序文では「整備に関する現在の配慮」と題し、現在では生活空間の整備が重要になってきていることを力説している。序論は「法律と地理学—空間の利用者のためにどのように空間を整備すべきか」と題していることから分るように、空間を最

もよく整備するために地理学と法律の果すべき役割を説いたものである。序論とはいえ、二十二頁にも及ぶもので、独立論文のような形をとっている。第一部は「整備の一般理論の要素」と題し六章からなっている。すなわち「空間の組織化について—地理学と経済学の考察」、「政治と具体的事実」、「人文地理学の分析方法について」、「海と土地—政治地理学草稿」、「灌漑」、「地域計画化の研究」の六論文で、とくに第三章の「人文地理学の分析方法について」は「地理学年誌 Annales de Géographie」に掲載された論文で、生活様式批判を行なった論文として有名なものである。第二部は「都市化と整備」と題され、五章からなっている。すなわち「都市の拡大と人口移動」、「現代世界における都市化とその政治的帰結」、「北アメリカ・西ヨーロッパの都市化」、「大西洋兩岸の都市の計画」、「ペリの計画についての論争」の五論文で、都市化に伴う整備計画について論じたものである。第三部は「アメリカの経験からの教訓」と題し、七章からなっている。すなわち「アメリカ合衆国の発展と戦後の経済」、「アメリカ合衆国の人文地理学における構

造の変化」、「アメリカの発展の傾向」、「アメリカ政府の農業事業」、「近代農業発展の政策的反響」、「メガロポリス—近代都市化の地域—実験室」、「ケネディーのアメリカ」の七論文で、ゴットマンが一九四二年合衆国を旅行したのをきっかけに、アメリカ合衆国に関心をもつようになり、その後メガロポリスをはじめとしてアメリカ合衆国の研究を進めていった成果を示す論文を集めたものである。第四部は結論であるが、「環境の整備技術」と題しており、八頁に及ぶもので、環境の複雑さ、空間の整備問題を論じている。表題からも分るよう

に、著者は生活空間の整備に対する地理学の果す役割を重視しており、地域研究を基礎とした整備の方向を追求している。ここに集録されている論文は、地理学関係以外の雑誌に掲載されたものが多く、従来読み得なかった論文をも読むことが出来る一方、断片的に地理学雑誌に発表されていた論文の全体としての位置づけも知ることが出来る。

(1966, mouton & Co., 347 p.p., ¥ 1980)

(青木伸好)